



記入日 2014年1月7日

1. 概要

実践団体名	大船渡市立吉浜中学校		
連絡先	0192-45-2153		
プランタイトル	学び・つなぎ・伝える・キッピン（吉浜）げんき隊		
プランの対象者※1	中学生、教職員、保護者PTA、地域住民、社会人、防災関係者、大野城市中学生	対象とする災害種別※2	津波

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント！】

- ① 奇跡の集落と言われる吉浜地区を生徒が誇りに思う学習の実施
- ② 地域の方々から当地区の歴史を学び、地域を含めた復興教育の実施
- ③ 教育活動の様子をブログで発信

【プランの概要】

- ① 地域の歴史を知り、地域の環境や史跡などを素材とした復興教育の実施
- ② 福岡県大野城市の中学生との交流活動を、全校生徒を対象として実施
- ③ 明治29年と昭和8年の2度の三陸大津波を機に地域全体が高台移転を実施した。そこから平成の大津波に至るまでの吉浜地区の様子を文化祭の演劇で発表
- ④ 東日本大震災を1000年後まで語り継ぐために、平成の津波記憶石を津波到達点付近に建立

【期待される効果・ここがおすすめ！】


「自分の命は自分が守る」「地域を知り、地域を誇りに思う」「東日本大震災を1000年後まで語り継ぐ」生徒の育成を目指し、復興教育を推進してきた。

2. プランの年間活動記録 (2013 年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4 月	・チャレンジプラン年間計画の提示と調整	・復興花壇用の肥料・球根準備 ・津波防災学習の依頼 ・大野城市との連絡調整開始 ・地域写真集用写真撮影開始	・4/3 三陸鉄道南リアス線開通式参加 ・平成の津波記念碑建立実行委員会発足 ・復興タオル掛けハンガー制作開始
5 月	・各学年取組内容の計画と調整	・オリエンテーション資料準備 ・避難訓練場所の確認	・5/21 「総合的な学習の時間」オリエンテーション ・5/24 「1000 年後まで伝えよう！東日本大震災のこと」について考える。
6 月	・大野城市中学生との交流会内容の調整	・「100 万人の花は咲く」集録用掲示物、合唱練習	・6/7 地震・津波を想定した避難訓練 ・6/11 ホタテの耳吊り作業 ・6/26 「100 万人の花は咲く」集録
7 月	・大野城市中学生との交流会内容の調整	・津波体験者講師検討と依頼	・7/5 復興花壇づくり ・7/5 安全標識づくり ・7/8 模型を通じた津波防災学習 ・7/11 県教育委員会による防災講話 ・7/18 平泉授業
8 月	・津波演劇の全体構想調整 ・チャレンジプラン年間計画調整	・8/25, 26 大野城市中学生との交流会準備 ・チャレンジプラン中間報告会資料作成	・8/6 津波体験者から話を聞く会 ・8/25, 26 大野城市中学生との交流会第 1 弾 ・8/29 大野城市中学生との交流会第 2 弾
9 月	・津波演劇の内容検討	・校内写真コンテスト写真撮影	・9/13 第 1 回校内写真コンテスト取り組み開始 ・平成の津波記念碑碑文考案
10 月	・研究開発学校申請に向けた防災教育との関わり調整	・文化祭演劇練習開始 ・平成の津波記念碑碑文検討 ・校内写真コンテスト写真撮影	・10/5 チャレンジプラン中間報告会参加 ・10/7 地域学習 ・10/27 文化祭で津波演劇披露 ・10/27 文化祭で各学年の取組発表
11 月	・研究開発学校指定に向けた防災教育との関わり調整	・次年度の防災マップづくり第 1 回講習会	・11/6 第 2 回校内写真コンテスト取り組み開始
12 月		・次年度の防災マップづくり第 2 回講習会	・次年度に向けた復興花壇づくり ・チャレンジプラン最終報告会資料づくり
1 月		・ニコソ写真集用資料作成 ・地域文集用資料まとめ	・安全標識を地域内に掲示
2 月	・研究開発学校申請に向けた防災教育との調整		・ニコソ写真集完成 ・地域文集完成
3 月	・次年度の防災教育の検討		・平成の津波記憶石建立

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号： 1 】※3

タイトル	三陸鉄道南リアス線開通式参加
実施月日（曜日）	4/3（水）
実施場所	三陸鉄道吉浜駅及び駅前周辺
担当者または講師	担当者・講師等の区分：本校職員 氏 名： 所属・役職等：
所要時間または「コマ数×単位時間」	5時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	イベント、総合的な学習の時間
活動目的※5	その他（地域活動への貢献）
達成目標	地域の一員として地域イベントを盛り上げる。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・吉中ソーランの事前練習 ・開通式に参加 ・吉中ソーラン披露 
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・吉中ソーラン用の絆纏 ・吉中ソーランの音源
参加人数	全校生徒32名、職員11名
経費の総額・内訳概要	25,000円（移動用バス代）
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校伝統の吉中ソーランを披露し、地域の一員として地域イベントを盛り上げることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉中ソーラン披露後に、帰校するまでの時間的なロスが多く工夫が必要である。
成果物	


※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。



【実践プログラム番号： 2 】※3

タイトル	復興タオルハンガー制作
実施月日（曜日）	随時
実施場所	校長室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：本校職員 氏 名： 所属・役職等：
所要時間または「コマ数×単位時間」	1制作あたり15分
プログラムのカテゴリ、形式※4	総合的な学習の時間、その他（作品制作）
活動目的※5	その他（支援して下さった方々と学校訪問された方々への感謝のプレゼント）
達成目標	支援して下さった方々へ感謝の気持ちを表そう。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・復興タオルハンガー制作用品の準備 ・作品の制作 ・ハンガーの説明書作成 ・ハンガー用の袋準備 ・作品をプレゼント 
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンガー用ホース ・花の種、植物の花 ・ハンガー解説書 ・ハンガー入れの袋
参加人数	全校生徒32名、職員13名
経費の総額・内訳概要	29,694円（ホース、木材、種等） ただし、プリント印刷に関する費用を除く。
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タオルハンガーをプレゼントした方から感謝の手紙が届いたり、ハンガーの中に入れる花びらを頂いたりした。ハンガーに使っているひまわりの種（神戸のはるかちゃんのひまわりから伝播）が更に多くの方々へも広がりを見せている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制作活動をほとんど職員に頼っている現状なので、生徒たちの活動として位置付ける方法を検討していく。
成果物	復興タオルハンガー

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 3 】※3

タイトル	「1000年後まで伝えよう！東日本大震災のこと」について考える
実施月日（曜日）	5/24（金）
実施場所	多目的教室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：本校職員 氏 名：村上 洋子 所属・役職等：校長
所要時間または「コマ数×単位時間」	2コマ×50分
プログラムのカテゴリ、形式※4	学習会、総合的な学習の時間
活動目的※5	防災意識を高める
達成目標	どうすれば、1000年後の人々に、東日本大震災のことを伝えられるだろうか。
実践方法・進め方（簡条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・2011年の東日本大震災を振り返る。 ・吉浜地区に襲来した津波の歴史を振り返る。 ・東日本大震災を経験して、感じたことや考えたことを各自書く。 ・1000年後の人々に、東日本大震災のことを伝える方法を考える。 ・縦割りのグループを作り、前時に考えた内容をもとにしたワークショップを行う。 ・ワークショップでまとめたものを発表する。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・「1000年後まで伝えよう！東日本大震災のこと」の学習シート ・感想用紙 ・ワークショップ用の模造紙 ・マジック
参加人数	全校生徒32名、職員11名
経費の総額・内訳概要	0円（プリント印刷に関する費用を除く）
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒たち一人ひとりに何が出来るのかを考えさせることができた。 ・縦割りによるワークショップ形式での学習を通して、リーダーが中心となって生徒たちの考えをまとめることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちが考えた事を今後の防災教育にどのような形で取り入れていけばよいかなどの具体案を考える必要がある。
成果物	ワークショップでまとめた資料


※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。



【実践プログラム番号： 4 】※3


タイトル	地震・津波を想定した避難訓練
実施月日（曜日）	6/7（金）
実施場所	水上助三郎銅像付近及び石川啄木碑付近
担当者または講師	担当者・講師等の区分：本校職員 氏 名： 所属・役職等：
所要時間または「コマ数×単位時間」	2コマ×50分
プログラムのカテゴリ、形式※4	総合的な学習の時間、避難訓練
活動目的※5	災害を想定した訓練
達成目標	体験活動時における災害に自ら考えた行動ができるようになる。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1、2年生は、水上助三郎銅像付近で、3年生は、石川啄木碑付近での清掃活動を行う。 ・ 地震発生の場合、担当教師によってそれぞれの場所で聞く。 ・ 指定した高台に避難を開始する。 ・ 地区毎の第一避難場所を確認する。 ・ 講評 ・ 帰校
準備、使用したもの ・ 人材 ・ 道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 軍手、ごみ袋、角スコップ、バケツ 
参加人数	全校生徒32名、職員11名
経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域にある史跡の場所をきれいにすることができた。 ・ 浸水区域での避難訓練であり、より実践に近い形での訓練となり真剣みが増した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 津波を想定した訓練であったが、土地の状況を考えると土砂災害も考慮する必要があった。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 5 】※3


タイトル	ホタテの耳吊り作業
実施月日（曜日）	6/11（火）
実施場所	吉浜根白漁港
担当者または講師	担当者・講師等の区分：本校職員 氏 名： 所属・役職等：
所要時間または「コマ数×単位時間」	3コマ×50分
プログラムのカテゴリ、形式※4	総合的な学習の時間、体験学習
活動目的※5	その他（地元での漁業体験を行う）
達成目標	地元漁業者との触れ合いを通じた漁業体験活動を行う。
実践方法・進め方 （箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・バスで漁港まで移動する。 ・ホタテの耳吊り作業体験を行う。 ・バスで帰校する。 ・感想文を書く。 
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・移動用バス ・作業用のカッパ上下 ・長靴 ・ゴム手袋
参加人数	全校生徒32名、職員11名
経費の総額・内訳概要	30,000円（バス代）
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元漁家との触れ合いを深めることができた。 ・復興中の主産業である漁業の現状を直に知ることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通手段としてのバス代を予算計上しておく必要がある。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 6 】※3

タイトル	「100万人の花は咲く」収録
実施月日（曜日）	6/26（水）
実施場所	各学級及び体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：本校職員 氏 名： 所属・役職等：
所要時間または「コマ数×単位時間」	6.7時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	総合的な学習の時間、その他（合唱DVDづくり）
活動目的※5	その他（NHK東日本大震災プロジェクト参加）
達成目標	合唱曲「100万人の花は咲く」を全校で歌い上げ、合唱DVDを制作する。
実践方法・進め方（簡条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・「NHK東日本大震災プロジェクト」の内容説明 ・合唱曲「100万人の花は咲く」の学級練習 ・合唱時の背景として使う花づくり ・各自の夢をカードに記入 ・掲示物づくり ・合唱DVD制作
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・花を作る折り紙 ・メッセージ用のカード ・録画機器 
参加人数	全校生徒32名、職員11名
経費の総額・内訳概要	3,000円（DVD用ディスク） ただし、プリント印刷に関する費用を除く。
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合唱曲「100万人の花は咲く」を行事等の機会があるごとに披露し、合唱の取り組みを盛り上げることができた。 ・合唱曲を多くの人に聞いてもらうことによって、自分たちの合唱に対する意識の高揚が図れた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校合唱曲の取り組み体制を仕組むことが必要である。
成果物	合唱DVD


※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。



【実践プログラム番号： 7 】※3

タイトル	復興花壇づくり
実施月日（曜日）	7/5（金）、12/10（火）
実施場所	木川田石油店前の花壇
担当者または講師	担当者・講師等の区分：1年生職員 氏名：吉田 雅仁 所属・役職等：1学年主任
所要時間または「コマ数×単位時間」	10コマ×50分
プログラムのカテゴリ、形式※4	総合的な学習の時間、体験学習
活動目的※5	その他（花壇づくり）
達成目標	花壇整備を行うことで、通行する人々に元気を与えると同時に、環境美化に対する関心を深めよう。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・活動場所へ移動 ・厚生保護女性の会の人たちと作業（花壇の掘り起し、肥料蒔き、苗植え、水撒き） ・帰校 
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・肥料 ・苗（サルビア、マリーゴールド、ペゴニア、日日草、インパチェンス） ・水 ・スコップ ・軍手
参加人数	全校生徒32名、職員4名
経費の総額・内訳概要	25,127円（花、苗、肥料）
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々との触れ合いが図れた。 ・道を行きかう人々に心の安らぎと元気を与えることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校から若干離れた場所にあるので、日頃の花壇の管理体制を工夫する必要がある。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 8 】※3


タイトル	安全標識づくり
実施月日（曜日）	7/5（金）
実施場所	教室及び海側の地域
担当者または講師	担当者・講師等の区分：3年生職員 氏名：小松 広子 所属・役職等：3年生担任
所要時間または「コマ数×単位時間」	8コマ×50分
プログラムのカテゴリ、形式※4	総合的な学習の時間、校外学習
活動目的※5	防災に役立つ資料・材料づくり
達成目標	安全標識を設置することで、安全に対する意識を高めると共に、地域に対する関心を高める。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・標識が必要な場所の地域探索 ・標識の製作、発表 ・地域内に設置 
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・地域マップ ・画板、筆記用具 ・デジタルカメラ ・コンピュータ ・ラミネート
参加人数	3年生8名、職員3名
経費の総額・内訳概要	0円 ただし、プリント印刷に関する費用を除く。
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の地形を理解し、避難場所として適切と思われる場所を考えることができた。 ・防災意識に自ら目を向けることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製作した標識を設置するための公共機関との連携を考慮しておく必要がある。
成果物	安全標識

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 9 】※3


タイトル	模型を通した津波防災学習
実施月日（曜日）	7/8（月）
実施場所	体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：岩手県立宮古工業高校の生徒 氏 名： 所属・役職等：
所要時間または「コマ数×単位時間」	2コマ×50分
プログラムのカテゴリ、形式※4	総合的な学習の時間、出前授業
活動目的※5	防災意識を高める
達成目標	津波から命を守るため、自ら考え行動する大切さを知る。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・津波についての基礎知識を学ぶ。 ・宮古湾周辺の模型を使い、津波が広がる様子を観察する。 ・感想記入 
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・宮古湾周辺の模型 ・水 ・感想記入用紙
参加人数	全校生徒32名、職員11名
経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津波から命を守るため、自ら考え行動することの大切さがわかった。 ・模型の動きから、津波の威力を知ることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの住んでいる地域の模型であれば、より実感がわいたと思われる。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 10】※3

タイトル	県教育委員会による防災講話
実施月日（曜日）	7/11（木）
実施場所	多目的教室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏 名：森本 晋也 所属・役職等：岩手県教育委員会・指導主事
所要時間または「コマ数×単位時間」	2コマ×50分
プログラムのカテゴリ、形式※4	総合的な学習の時間、出前授業
活動目的※5	防災に関する知識を深める。防災意識を高める。
達成目標	災害から命を守るための知識と防災意識を高める。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災講話 ・ 感想記入 
準備、使用したもの	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人材 ・ 道具、材料等 <ul style="list-style-type: none"> ・ プレゼンテーション用資料 ・ 感想記入用紙
参加人数	全校生徒32名、職員11名
経費の総額・内訳概要	0円 ただし、プリント印刷に関する費用を除く。
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災に関する知識を深めることができた。 ・ 地域の実情にあった防災意識を高めることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校が置かれている状況では、土砂災害を意識しなければいけないことに気づいた。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 11】※3

タイトル	平泉授業
実施月日（曜日）	7/18（木）
実施場所	多目的教室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏名：佐藤 郁哉、瀧上 恭子 所属・役職等：岩手県教育委員会事務局：世界遺産担当
所要時間または「コマ数×単位時間」	2コマ×50分
プログラムのカテゴリ、形式※4	総合的な学習の時間、出前授業
活動目的※5	その他（世界遺産を知る）
達成目標	大野城市中学生との交流会で、自分たちが平泉を案内できるような知識を得る。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・平泉講話 ・感想記入 
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・平泉紹介プレゼンテーション資料 ・感想記入用紙
参加人数	全校生徒32名、職員11名
経費の総額・内訳概要	0円 ただし、プリント印刷に関する費用を除く。
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産登録された平泉についての知識を得ることができた。 ・生徒たちが平泉を案内して歩くための資料作りに役立った。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、平泉授業を継続できるか。
成果物	


※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。



【実践プログラム番号： 12 】※3

タイトル	津波体験者から話を聞く会
実施月日（曜日）	8/6（火）
実施場所	多目的教室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：地域住民 氏 名：伊藤久直、欠畑時子、東邦博、菅生多美子 木川田平三郎 所属・役職等：
所要時間または「コマ数×単位時間」	2コマ×50分
プログラムのカテゴリ、形式※4	総合的な学習の時間、その他（聞き取り）
活動目的※5	防災に関する知識を深める。
達成目標	東日本大震災の時に各自が置かれていた状況を理解する。
実践方法・進め方（簡条書きまたはフロー）	・ 東日本大震災の時の様子の聞き取り 
準備、使用したもの ・ 人材 ・ 道具、材料等	・ 東日本大震災の時の資料 ・ 筆記用具 ・ 録音機器
参加人数	全校生徒32名、職員11名
経費の総額・内訳概要	0円 ただし、プリント印刷に関する費用を除く。
成果と課題	【成果】 ・ 東日本大震災の時に各自が置かれていた状況を理解することができた。 ・ 津波演劇に役立った。 【課題】 ・ 聞き取りをした内容で今後の活動に生かせるものを検討する必要がある。
成果物	講話原稿まとめ

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 13】※3


タイトル	大野城市中学生との交流会 第1弾
実施月日（曜日）	8/25（日）、26（月）
実施場所	三陸鉄道 盛駅～吉浜駅、地域、本校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：本校職員
所要時間または「コマ数×単位時間」	1.5日
プログラムのカテゴリ、形式※4	総合的な学習の時間、校外学習、体験学習
活動目的※5	遊び・楽しみながら防災、防災に関する知識を深める。防災意識を高める。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を知り、歴史・津波被害について学び、防災意識を高める。 ・大野城市の中学生と交流する中で、被災地の状況を伝え、復興の様子を発信する。 ・地域に自信と誇りを持ち、地震津波について語り継ぐ中学生を育成する。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<p>25（日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生は大船渡盛駅から大野城市中学生一団と三陸鉄道南リアス線に乗車し、列車内で交流しながら吉浜駅まで来る。 ・学校で夕食を食べ、夜お楽しみ会を行う。 ・体育館に宿泊 <p>26（月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝食 ・各学校紹介 ・昼食 ・各校交流 ・お別れ会 ・2年生は大野城市中学生一団とバスに乗車し、津波石等の津波関連史跡巡りをした。その後、根白漁港から小船に乗船し、海上から地域を眺めた。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・列車、バス、小船 ・朝食～夕食までの食材 ・花火 ・交流会用プレゼンテーション資料
参加人数	全校生徒32名、大野城市中学生10名、職員16名、明治大学学生10人、地域住民等
経費の総額・内訳概要	91,479円（防災グッズ、列車代、小舟代、食品代） ただし、プリント印刷に関する費用を除く。
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大野城市中学生との交流は2年目になるが、被災地の状況を伝え、復興の様子を発信することができた。 ・地域を陸と海の両面から直に見ることにより、防災意識を更に高めることができた。 <p>【課題】 バスで巡る史跡の場所の検討が必要である。</p>
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 14】※3

タイトル	大野城市中学生との交流会第2弾
実施月日（曜日）	8/29（木）
実施場所	奥州平泉
担当者または講師	担当者・講師等の区分：本校3年生職員 氏名：紀室 浩 所属・役職等：3学年主任
所要時間または「コマ数×単位時間」	1日
プログラムのカテゴリ、形式※4	総合的な学習の時間、校外学習
活動目的※5	その他（史跡めぐり）
達成目標	自分たちが学んだことを大野城市の中学生に伝えることができる。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・バスに乗って奥州平泉の金色堂等を巡る。 ・昼食を食べる。 ・大野城市中学生を花巻空港で見送る。 ・帰校
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・大型バス1台 ・平泉案内用学習プリント 
参加人数	3年生8人、大野城市中学生10人、教職員8人
経費の総額・内訳概要	18,000円（バス代、食事代） ただし、プリント印刷に関する費用を除く。
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産の平泉を、平泉授業で学習した内容と照らし合わせながら案内することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両校での日程調整を密に進める必要がある。
成果物	平泉案内資料

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 15】※3


タイトル	校内写真コンテスト
実施月日（曜日）	9/13（金）、11/22（金）
実施場所	吉浜中学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：本校職員 氏 名：木村 寿子 所属・役職等：ニコン写真担当
所要時間または「コマ数×単位時間」	9/13（金）～11/22（金）
プログラムのカテゴリ、形式※4	イベント
活動目的※5	楽しみながら防災、その他（写真集制作）
達成目標	1000年後に伝えたい吉浜を写真で残そう。
実践方法・進め方（簡条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取り組み内容説明 ・ 写真撮影開始 ・ 写真コンクール ・ 地域写真集制作 
準備、使用したもの ・ 人材 ・ 道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・ デジタルカメラ ・ 各自の応募作品
参加人数	全校生徒32名
経費の総額・内訳概要	0円 ただし、プリント印刷に関する費用を除く。
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1000年後に伝えたい吉浜をテーマにした写真を各自で撮影することができた。 ・ 各自の吉浜に対する思いを写真や添えられたメッセージから感じ取ることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 写真のアンクルなどを写真教室を開いたりすることによって、写真の質を向上させることが必要である。
成果物	写真コンクール用写真

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 16】※3


タイトル	平成の津波記憶石建立計画
実施月日（曜日）	H25、4月～H26、3月
実施場所	吉浜中学校及び地域周辺
担当者または講師	担当者・講師等の区分：本校職員 氏 名：村上 洋子 所属・役職等：校長
所要時間または「コマ数×単位時間」	随時
プログラムのカテゴリ、形式※4	総合的な学習の時間、その他（津波記憶石建立）
活動目的※5	防災意識を高める、その他（記憶として残す）
達成目標	1000年後までも東日本大震災の思いを伝えよう。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・全優石との連絡 ・津波記念碑実行委員会発足 ・実行委員会開催（3回） ・資金集め（資源回収、募金、支援団体） ・記念碑へ書き込む碑文検討 ・記念碑構想案検討
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡県大野城市 市民部 ・岐阜県「手と手をつなぐ会」 ・愛知県新城市立千郷中学校 ・北海道羅臼町立春松中学校 ・長野県伊那市立富県小学校 ・清水・青木あすなる建設JV 
参加人数	全校生徒32名、職員13名、地域住民他
経費の総額・内訳概要	0円 ただし、プリント印刷に関する費用を除く。
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域防災に対する生徒たちの思いを、一つの碑文としてまとめることができた。 ・地域との関わりの重要性を感じることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津波記憶石を建立する場所を公園化する計画があるので、それにたいする準備計画を進めておく必要がある。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 17】※3


タイトル	地域学習
実施月日（曜日）	10/7（月）
実施場所	吉浜中学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏名：東 堅市 所属・役職等：吉浜公民館長
所要時間または「コマ数×単位時間」	2コマ×50分
プログラムのカテゴリ、形式※4	学習会、総合的な学習の時間
活動目的※5	防災に関する知識を深める。
達成目標	郷土の偉人や伝統文化について学ぶことにより、地域の歴史を知ることができるようになろう。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講話 ・ 学校内の郷土資料室見学 ・ まとめ 
準備、使用したもの ・ 人材 ・ 道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講話用資料 ・ 筆記用具 ・ 感想記入用紙
参加人数	1年生10名、職員2名
経費の総額・内訳概要	0円 ただし、プリント印刷に関する費用を除く。
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 改めて郷土の偉人について、深く学ぶことができた。 ・ 昔の民具、漁具について、知識を得ることができた。 ・ 文化祭で発表、ブログで発信できた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 郷土資料室の活用方法について検討が必要である。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 18】※3


タイトル	津波演劇
実施月日（曜日）	10/27（日）
実施場所	吉浜中学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：本校職員 氏名：村上 洋子 所属・役職等：校長
所要時間または「コマ数×単位時間」	8月～10/26日 随時
プログラムのカテゴリ、形式※4	総合的な学習の時間、演劇
活動目的※5	防災意識を高める、その他（伝承活動）
達成目標	東日本大震災を契機として、過去の津波を教訓に高台移転を成し遂げた先人の教えを語り継ぐことができる。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・吉浜村8代村長の孫である柏崎ナカさんから当時の吉浜の様子を聞く。 ・東日本大震災を経験した被災者から当時の様子を聞く。 ・校長が脚本の原案を制作 ・3年生が脚本に新たな場面を挿入 ・出来上がった原作に地域の方言を取り込む（地域住民の援助） ・演劇キャスト等を決めて、演劇練習開始
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資料 ・演劇に必要な物品 
参加人数	全校生徒32名、職員13名
経費の総額・内訳概要	25,000円 ただし、プリント印刷に関する費用を除く。
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・劇を通じて、先人への感謝の気持ちを持つきっかけを作れた。 ・今を生きている人たちに、震災について改めて考える機会を与えることができた。 ・命を大切に先人の思いを伝えることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度の津波演劇の内容を早めに検討する必要がある。
成果物	演劇脚本、DVD

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 19】※3

タイトル	文化祭での各学年の取組発表
実施月日（曜日）	10/27（日）
実施場所	吉浜中学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：吉浜中学校職員 氏 名： 所属・役職等：
所要時間または「コマ数×単位時間」	10月～10/26 随時
プログラムのカテゴリ、形式※4	総合的な学習の時間、その他（まとめ発表）
活動目的※5	その他（学年の活動のまとめ）
達成目標	これまで取り組んできた防災教育チャレンジプランのまとめをしよう。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> 各学年で防災教育チャレンジプランとして活動してきたことをまとめる。 パワーポイントで発表資料を制作する。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> 学年ごとの活動の記録 プレゼンテーション用の資料 
参加人数	全校生徒32名、職員8名
経費の総額・内訳概要	0円 ただし、プリント印刷に関する費用を除く。
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 限られた発表の時間で、各学年の活動の振り返りができた。 他学年の活動の様子がわかり、次年度への足掛かりができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学年ともにパワーポイントでの説明となり、学年としての特色性に乏しかった。
成果物	各学年パワーポイント資料

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>①防災教育チャレンジプランに参加するにあたり、これまで取り組んできた学習内容では防災教育という視点で該当するものがなく苦慮した。</p> <p>②これまで学校で取り組んできた教育活動をいかに発展させればよいのか見当を要した。さらに、学校の施設及び地域にある施設環境をいかに生かした教育活動が展開できるか熟慮を要した。</p> <p>③全校で取り組ませる内容と各学年で取り組ませた方がいい内容の仕分けが難しかった。</p> <p>④岩手復興プログラムにある教育的価値 2 1 項目と本校の教育活動の関連が難しかった。</p> <p>⑤各教育活動に合わせた地域の人材活用の見通しを持つのが大変であった。</p> <p>⑥本校の活動への交流団体及び支援団体との調整に時間を要した。</p>
<p>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>①支援団体を含めた関係団体との連絡調整を、担当者を中心として密に取りながら教育活動を展開してきた。</p> <p>②限られた運営費の中で、交通費、製作費、消耗品費などの諸経費に充てる費用の運用がとても大変であった。</p> <p>③宿泊活動を伴った活動を計画するに当たり、防災関係で常備しておいた方がいい物品などを購入できた。</p> <p>④副校長を中心として復興教育担当者及び学年主任などの組織を生かしながら、1つ1つの活動で連携を重視しながら教育活動を推進してきた。</p>
<p>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>①当日の天候に左右される活動もあったため、それに代わる活動を事前に検討しておいた。</p> <p>②当日の活動の様子を写真に撮り、その日のうちに本校のブログに掲載し生徒の意欲向上に努めることができた。</p> <p>③花壇の整備作業、ホタテの耳吊り作業などの活動においては、地域の方々の協力を得ながら触れ合いを深めた活動が推進できた。</p> <p>④保護者及び地域在住の郷土史家をはじめとした多くの方々の協力を得ながら、演劇作りをはじめとした活動資料作りを進めることができた。</p> <p>⑤教育関係団体・地域組織・企業など多くの支援団体によって活動を支えていただき、内面的にも物質的にも大変助かった。</p>

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	①岩手県教育委員会 ②沿岸南部教育事務所 ③大船渡市教育委員会 ④吉浜小学校 ⑤吉浜こども園 ⑥岩手県立宮古工業高校 ⑦福岡県大野城市中学校 5校 ⑧愛知県新城市立千郷中学校 ⑨北海道羅臼町立春松中学校 ⑩長野県伊那市立富県小学校 ⑪防災科学技術研究所 ⑫明治大学 ⑬国際大学	①防災講話、平泉学習 ②活動全般 ③活動全般 ④合同避難訓練 ⑤合同避難訓練 ⑥津波防災学習 ⑦交流会 ⑧津波記憶石建立 ⑨津波記憶石建立 ⑩図書寄贈、津波記憶石 ⑪防災マップ ⑫ i p a d 利用 ⑬学校ブログ作成
保護者・ P T A の組織	①生徒の保護者 ②学校評議員	①津波体験談 ②津波体験談、地域学習
地域組織	①吉浜地区自治会 ②厚生保護女性の会 ③地域住民	①津波記憶石建立 ②復興花壇づくり ③津波体験談
国・地方公共団体・ 公共施設	①大船渡市役所 ②吉浜拠点センター ③吉浜漁協 ④福岡県大野城市 市民部	①活動全般 ②活動全般 ③ホタテの耳吊り作業 ④交流会、津波記憶石建 立
企業・ 産業関連の組合等	①清水・青木あすなろ建設 J V ②全優石 ③コエダ企画	①津波記憶石建立 ②津波記憶石建立 ③復興花壇づくり
ボランティア団体・ N P O 法人・N G O 等	①岐阜県「手と手をつなぐ会」	①津波記憶石建立
職業、職能団体・ 学術組織、学会等		

6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

成果として 得たこと

- ① 4月3日の三陸鉄道南リアス線の開通式で伝統の吉中ソーランを披露し、地域との絆を深めた。
- ② 6月に地元漁港で、主産業であるホタテの耳吊り作業を体験し、漁業従事者との関わりを深めた。
- ③ 6月に校外活動時での地震・津波を想定した避難訓練を実施し、生徒たちの判断力を確かめることができた。
- ④ 7月に岩手県立宮古工業高校による宮古湾周辺模型を利用した津波防災学習を実施し、地震による津波が湾に押し寄せてくる様子を学習した。
- ⑤ 7月に通学路にある復興花壇づくりを地域の方々と共に実施し、お互いの触れ合いと通行人への元気を与えることができた。
- ⑥ 阪神・淡路大震災の時に神戸で咲いたひまわりの花から派生した種や学校花壇から得た花や種などを利用し、復興タオルハンガー作りをし、心のセラピーにもつなげることができた。
- ⑦ 8月に大野城市中学生との交流を通して、1年生は三陸鉄道南リアス線に乗り、語り部の案内で被災地を巡ることができた。2年生は吉浜地区をバスで巡り、その後、小船に乗って海上から奇跡の集落吉浜の町並みを直に見ることができた。高台移転の様子が手に取るようにわかった。3年生は世界遺産登録された平泉の中尊寺等を、本校の生徒たちが語り部となって巡った。吉浜と中尊寺の関わりも説明することができた。
- ⑧ 9月に地域内の津波危険区域に、自分たちが制作した安全標識を設置した。
- ⑨ NHK東日本大震災プロジェクトの「100万人の花は咲く」を復興合唱曲として、行事の際等に歌っている。
- ⑩ 10月の文化祭で「奇跡の集落 吉浜」という手作りによる津波演劇を行い、先人たちが成しえた高台移転の様子を後世に伝える一翼を担うことができた。
- ⑪ 「1000年後に伝えたい吉浜」をテーマとした校内写真展と写真集を作成することができた。
- ⑫ 子どもたちの学習活動の様子をその都度本校ブログで発信し、広く周知するとともに子どもたちの励みにもすることができた。





全体の反省・感想・課題	<p>①「1000年後まで伝えよう！東日本大震災のこと」というテーマで様々な教育活動を展開することによって、生徒たちの意識に地域を大事にしようという気持ちと、自分たちにできることは何かを真剣に考える機会を与えることができた。</p> <p>②小規模校でありながらもこれだけ多くの防災教育に係る内容を取り組んできたことによって、生徒たち一人ひとりに自信を与えるとともに地域に対する誇りが生まれたと思われる。</p> <p>③学習内容を教育課程の総合的な学習の時間に位置付けて、継続して指導できる職員の体制づくりと学習内容の見直しと発展化が必要である。</p> <p>④文部科学省の研究開発学校として指定校された場合の、防災教育チャレンジプランの内容の再構築化が必要である。</p> <p>⑤外部支援団体とのつながりで推進している学習内容を精査する必要がある。</p>
今後の継続予定	<p>防災教育チャレンジプランについては次年度の申請はしませんが、次年度から4年間に渡る文部科学省の指定（申請中）による「研究開発学校」としての取り組み内容に全面的に生かしていく予定である。</p> <p>今年度の活動を柱に据えながら、国の支援などを生かしながら一つ一つの内容を発展継続させていく計画を立てている。</p> <p>また、近隣学校などにも情報を提供しながら、各学校の防災教育の一助になればと考えている。</p>

7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。

● 次年度に考えている防災教育の新たな取り組み

(1) iPadを活用した防災マップづくり

防災科学技術研究所の支援をいただきながら、地域の防災マップづくりを進めていく予定である。東日本大震災に関わる内容はもちろんであるが、地域内の史跡をはじめとする観光マップの性質をも兼ね備えた総合的なマップづくりを考えている。その活動の中で、写真利用の面ではiPadを活用しながら進めていく。

(2) かまどベンチを利用した避難所体験学習

県立宮古工業高校の生徒さんたちに作っていただいたかまどベンチを利用した避難所体験学習を考えている。次年度で3年目となる福岡県大野城市中学生との交流会を夏に計画する。その中で行われる宿泊体験活動の一環としてこの活動を盛り込んでいきたい。

● 今年度の活動の様子



三陸鉄道南リアス線開通式典



復興タオルハンガー制作

(自由記述: 1/3)



1000 年後まで伝えよう



地震・津波を想定した避難訓練



ホタテの耳吊り作業



合唱「100 万人の花は咲く」



↑ 復興花壇づくり ↓ 模型を通した津波防災学習



↑ 安全標識づくり ↓ 防災講話



(自由記述: 2/3)



平泉授業



津波体験者から話を聞く会



大野城市中学生との交流（1年 三陸鉄道、2年 吉浜湾、3年 平泉）



平成の津波記憶石建立計画



地域学習



津波演劇



津波演劇

(自由記述: 3/3)